



みんなで作るうるおい溢れるまち

～うるるんあいち計画～

グループ名 : うるおい、あいち

メンバー : 中川和政、平岡亜純、山下一徳、大島信也

チューター : 九里徳泰、奥岡桂次郎、高取千佳、高橋知克

現状の把握

1. 愛知県市街化区域緑被率 2. 愛知県市街化区域緑被面積



このままでは「緑」は減少していく

そこで

2012年県建設部公園緑地課では、「愛知県広域緑地計画」を策定し、2020年末までの目標を定めている。その中で、緑の保全、拡大に関しては、
 ①緑被率の減少速度を半減
 ②緑の確保や創出面積:350haなどを掲げ
 生物多様性への配慮、身近に緑を確保する、防災対策、広域的な緑地保全など様々な施策を図っている。

しかしながら

今後においても緑が大幅に増えるといった方向性はなく、速度の差こそあれ、「緑は減少していく傾向にある」

2035年に向けての提言の概要

住民が主体的に緑の創出に参加して、自らの手で「うるおい」を生み出すまちづくりを目指す。



出所: 岸和田市都市計画課HP
愛知県地域安全課HP

越谷市企画課HP
路地広場設計空間室HP

提案の内容

1. 「緑視率」を指標とした「うるおい」を生み出すまちづくり

【現状】一宮駅東口 緑視率:6.1% 市民意向調査では68%が緑が豊かであると回答



【向上案】緑視率:25%



出所: 一宮市 緑の基本計画 第5章 水と緑の将来像

「緑視率」とは、国土交通省平成17年8月12日記者発表 都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験調査についてでは、「緑視率(人の視野に占める緑の面積)が25%を超えると「うるおいや安らぎ」を感じる調査結果が公表されている

提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン)と実現可能性



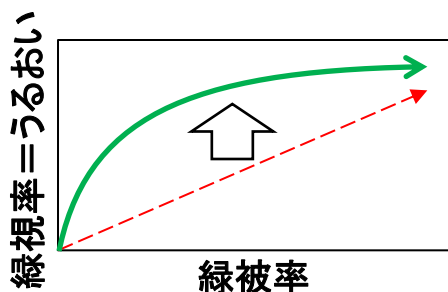
第1ステージ: 県民に周知させる施策

第2ステージ: 体験させる(「たのしみ」を知る)

第3ステージ: 想定される副作用とそのケア

第4ステージ: 緑視率の効果の確認と維持継続するための活動

波及効果



- ・緑被率に加え、緑視率を取り入れることにより、市街化地域において生活利便性と両立を図ったまちづくりが可能となる。
- ・そこに住む人々が緑を「楽しむ」ことで生活実感としてのうるおいを自ら生み出し、育てることで環境問題を身近に感じられる効果を期待できる